

## 第二章 地域で支え合う福祉の充実

### 第一節 地域で支え合う福祉の充実

主たる担当課

地域福祉活動の活性化

32001

社会福祉課

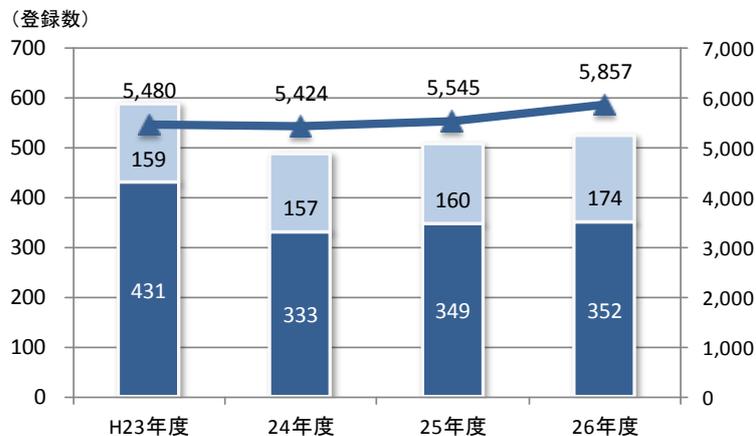
---

# 第一節 地域で支え合う福祉の充実

## 現状と課題

- 近年、地域での支え合い（共助）が成立するための前提となる地域のコミュニケーションが希薄化しています。そこには、少子化、核家族化の進行や個人情報保護の問題など、共助が成立しにくい現代の世相が影響しています。また、何らかの支援が必要であっても、相談窓口や福祉サービスの利用につながらない人が増えており、亡くなってから相当期間放置される「孤立死」は社会問題にもなっています。
- 我孫子市では、地域で支え合う福祉の充実を図るため、我孫子市社会福祉協議会と、市内6地区にある地区社会福祉協議会が中心となって、かかりつけ医や服薬内容などの医療情報を記入する「あんしんカード」の配付をはじめとした高齢者支援事業や、ボランティア活動への支援、子育てサロンの運営など、さまざまな取り組みが行われています。また、まちづくり協議会や自治会、市民活動団体による地域福祉活動も展開されています。社会福祉協議会に登録されているボランティア団体数と登録者数は年々増加しており、平成22年の153団体5,185人から、平成26年には174団体5,857人になっています。まちづくり協議会や自治会、市民活動団体による活動をはじめとして、一般的に市民公益活動やボランティア活動が活発です。市では、これまで、広報や市ウェブサイト、生涯学習出前講座を活用して共助意識の啓発に取り組むとともに、社会福祉協議会などが行う地域福祉活動を支援してきました。
- 今後は、地域で共に支え合う体制づくりに向けて、地域の人々自らが地域福祉の担い手となるための取り組みが求められています。そのため、生涯学習や市民活動とも連携しながら共助意識の啓発を総合的に進めるとともに、地域福祉活動の中心的な担い手である社会福祉協議会や地区社会福祉協議会、民生委員児童委員協議会、まちづくり協議会、自治会との連携を強化する必要があります。さらに、地域において支援を必要としている人を早期に把握し、適切な支援につなげることができるよう、孤立死防止対策事業の周知や啓発を行うとともに、協力機関との連携や情報の共有化を図る必要があります。

■ 社会福祉協議会のボランティア登録者・登録団体数



## 施策の展開

### ○地域福祉活動の活性化

32001

地域で共に支え合えるよう、共助意識の啓発や自治会・まちづくり協議会との連携の強化など、地域の人々自らが地域福祉の担い手となるための取り組みを進めます。また、社会福祉協議会との結びつきを強化して、地域の相談窓口の役割を担う民生委員・児童委員の育成とその確保を図ります。

## 目標・指標

**目標** 【32001】 地域福祉活動が活性化し、市民がお互いに支え合って生活している。

指標名（指標の説明など）	現況値	目標値
	平成 26 年度	平成 33 年度
「地域で支え合う福祉の充実」施策に対する市民満足度 （市民アンケートで「満足」・「やや満足」と回答した人の割合） 32001	38.5% (27 年度)	45%
社会福祉協議会のボランティア登録者数 32001	5,857 人	6,200 人